

平成27年産水稻の8月15日現在における作柄概況（徳島県）

－ 早期栽培の10a当たり予想収量は450kg、普通栽培の生育は「平年並み」の見込み －

【調査結果の概要】

徳島県における早期栽培の作柄は、10a当たり予想収量は450kg（作況指数97）が見込まれます。

また、普通栽培の生育は、おおむね「平年並み」で推移しています。

表1 早期栽培の10a当たり予想収量（8月15日現在）

区 分	10a 当たり 予想収量 ①	(参考) 農家等が使用しているふるい目幅ベース			(参 考)	
		10a 当たり 予想収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	作付面積 (子実用、見込み) ⑤	予想収穫量 ⑥=①×⑤
徳 島 県	450	446	459	97	4,580	20,600
北 部	453	450	462	97
南 部	449	444	458	97

注：1 ①10a 当たり収量及び⑥予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の数量です。
 (参考) 作付面積（子実用、見込み）は、関係機関等からの情報収集により把握した現時点での見込みの面積（参考値）であり、今後変動する可能性があります。
 なお、作付面積（子実用、見込み）は、現時点で地帯別に取りまとめていないことから、地帯別は「…」で示している。また、北部、南部の区分については、「調査の概要」（P4）を参照。
 2 ②③④は、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（四国は1.75mm）で選別された玄米を基に算出した数値です。

表2 早期栽培の作柄概況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較			
	穂数の 多少	1穂当 りもみ 数の 多少	全も み数の 多少	登熟 の 良 否
徳 島 県	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
北 部	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
南 部	平年並み	平年並み	やや少ない	平年並み

注 本表における平年比較の表示区分は、「多い・良」が対平年比106%以上、「やや多い・やや良」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや少ない・やや不良」が98～95%、「少ない・不良」が94%以下に相当します。

表3 普通栽培の生育状況（8月15日現在）

区 分	平 年 比 較		
	生育の良否	草丈の長短	茎数の多少
徳 島 県	平年並み	平年並み	平年並み
北 部	平年並み	平年並み	平年並み
南 部	平年並み	平年並み	平年並み

注 生育状況は、草丈の長短、茎数の多少等の計測結果、生育の遅速、被害の発生状況及び一部のほ場における計測可能な穂数、もみ数等の計測結果等を総合して、8月15日現在における稲体の生育状態を調査したもので、作柄を予測したものではありません。

表4 平成27年産水稻の田植・出穂等の状況（8月15日現在）

早期栽培

区分	田植期					出穂期					出穂済み面積割合		刈取済み面積割合	
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年度	対平年差	当年度	対平年差
				対平年	対前年				対平年	対前年				
徳島県	4.7	4.17	5.3	△1	△1	7.6	7.14	7.25	△4	△3	100	0	15	7
北部	4.14	4.26	5.5	△1	0	7.11	7.16	7.26	△3	△3	100	0	4	3
南部	4.6	4.14	4.27	△1	△1	7.5	7.13	7.25	△4	△3	100	0	20	8

普通栽培

区分	田植期					出穂期					出穂済み面積割合	
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較		当年度	対平年差
				対平年	対前年				対平年	対前年		
徳島県	5.2	5.23	6.13	1	1	7.21	8.1	…	0	1	85	2
北部	5.2	5.24	6.13	1	1	7.21	8.1	…	0	1	85	2
南部	5.2	5.15	6.2	1	1	7.21	8.1	…	△1	0	87	0

注：1 田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。

2 出穂期の終期の欄の「…」は、8月15日現在でそれぞれの期日に達していないことを示します。

3 最盛期の比較の欄の「△」は、平年（前年）よりも早いことを示します。出穂済み面積割合及び刈取済み面積割合の対平年差欄の「△」は、平年より少ないことを示します。

【調査結果】

1 早期栽培

田植期は、育苗期間の天候に恵まれ順調に生育したことから、最盛期は、4月17日となり平年に比べ1日早くなった。出穂期は、梅雨入りまでの間、高温に推移したことにより、最盛期は7月14日となり平年に比べ4日程度早くなった。

穂数は、梅雨入り以降、気温が平年並みに推移したものの、日照不足の影響により平年に比べ「やや少ない」となった。1穂当たりもみ数は、「平年並み」を確保したものの、梅雨明けが6日遅かったことから、全もみ数は、有効穂数が減少し「やや少ない」となった。

登熟は、台風第11号の強風による穂ずれ、梅雨明けの遅れが懸念されていたが、梅雨明け以降は好天に恵まれたことから「平年並み」となった。

以上のことから、10a当たり予想収量は450kgが見込まれる。

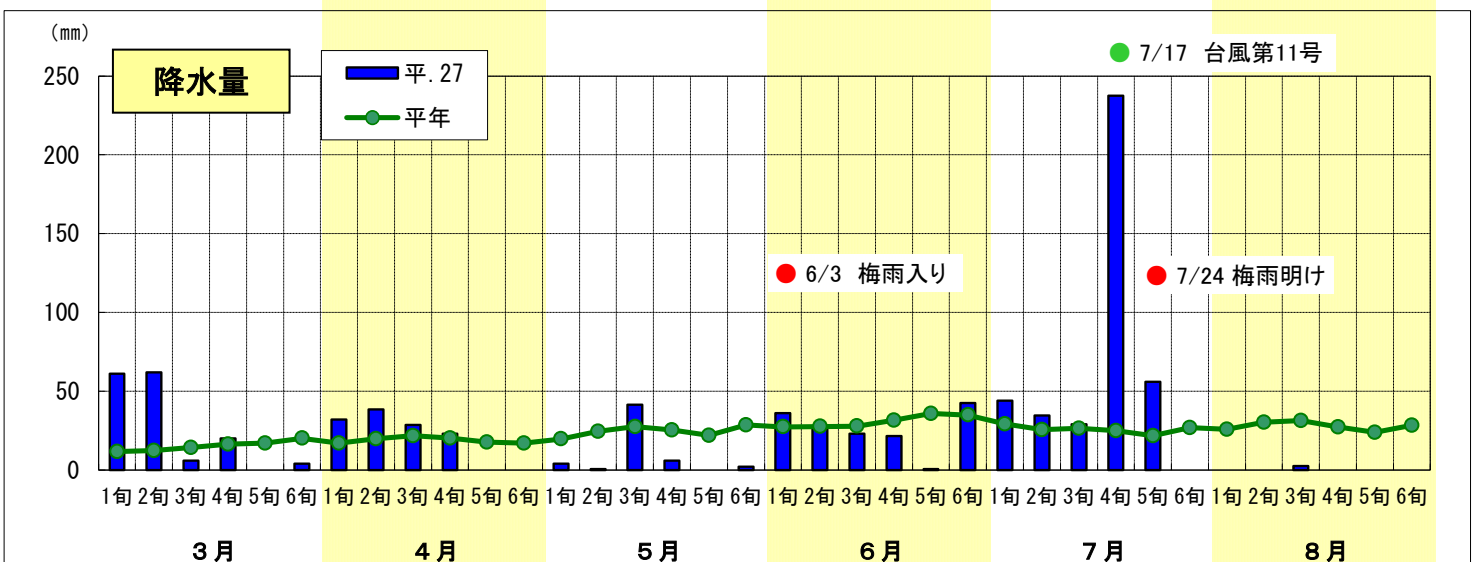
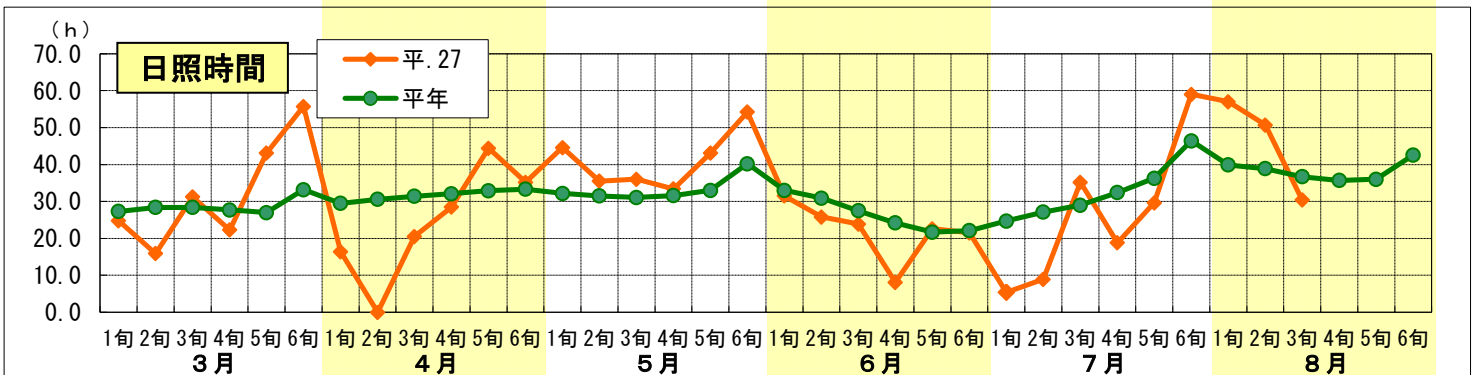
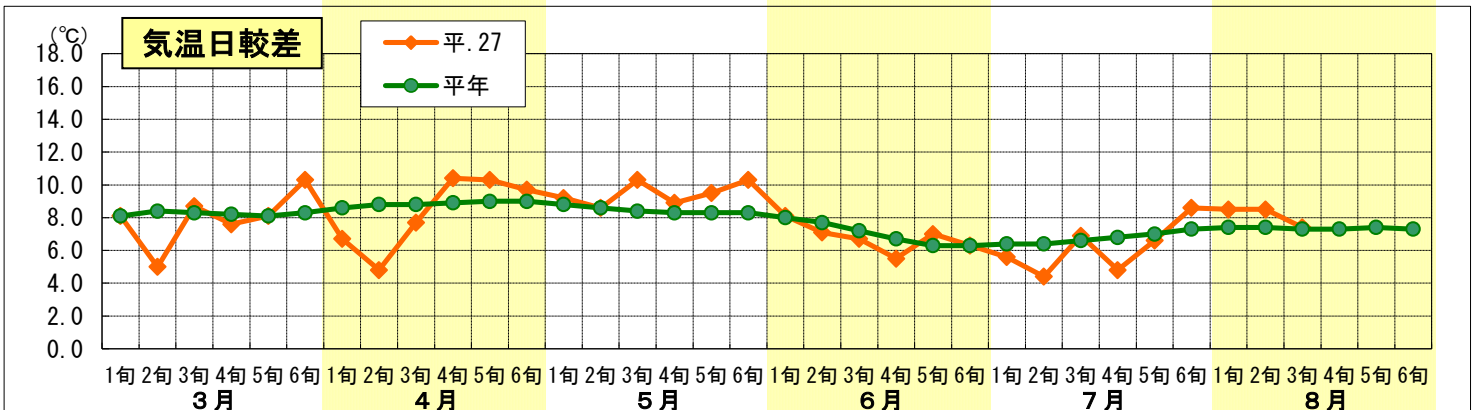
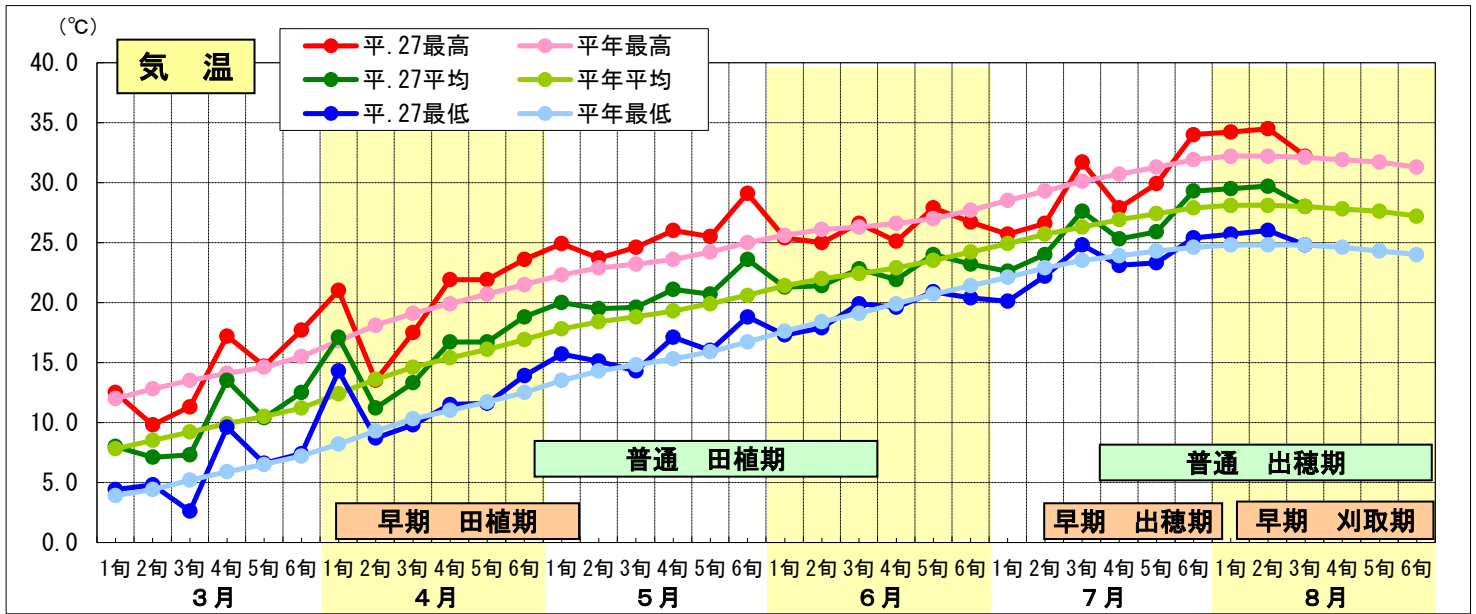
2 普通栽培

田植期は育苗期間から高温・多照で推移したことから、苗の生育が順調に推移し最盛期は5月23日となり、ほぼ平年並みとなった。出穂期は梅雨全期間が低温・日照で推移したものの、梅雨明け以降は好天に恵まれ最盛期は8月1日となった。なお、8月15日現在の出穂済み面積割合は85%となっている。

以上のことから、生育は「草丈」、「茎数」とともに確保され、「平年並み」で推移している。

【平成27年 稲作期間の気象経過】

資料：気象庁
観測地点：徳島



【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っています。

区分	調査対象都道府県	備考
早期栽培等	徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	8月中旬頃までに刈り取りがおおむね終了する早期栽培の面積割合が、おおむね3割以上を占める県及び二期作のうちの第一期稲が栽培される沖縄県
早場地帯	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、島根県	8月15日現在の出穂済面積割合が、平年ベースでおおむね8割以上を占める道県
遅場地帯	早場地域の道県以外の都府県 (岡山県、広島県、山口県、徳島県(普通栽培)、香川県、愛媛県、高知県(普通栽培)等)	

徳島県の作柄表示地帯の区分は、次のとおりです。

区分	市町村名
北部	徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町
南部	阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町

3 調査対象数

作況標本筆調査:150筆 作況基準筆調査:6筆 巡回・見積り:24市町村

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

5 調査期日

8月15日現在で水稲の生育・作柄概況を調査しました。

6 調査方法

調査は、職員又は統計調査員が、作況標本筆又は作況基準筆に対する実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

7 集計方法

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

- (1) 「穂数の多少」とは、1㎡当たりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (2) 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「登熟の良否」とは、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (5) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。
- (6) 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅(四国は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出しています。

(7) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

統計数値については、下記の方法で四捨五入しています。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数 (下から)		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入 しない
例	四捨五入する前 (原数)	1, 234, 567	123, 456	12, 345	1, 234	123
	四捨五入した後 (統計数値)	1, 235, 000	123, 500	12, 300	1, 230	123

10 その他

本調査における作柄概況 (8月15日現在) は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

～この農林水産統計に関するお問い合わせはこちらへ～

中国四国農政局徳島地域センター

農政推進グループ 総括農政情報官 (生産流通消費統計担当)

Tel : 088-625-6990 (内線351) Fax : 088-654-1383



この農林水産統計は、中国四国農政局ホームページで御覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nousei/tokushima/>